

## アジア太平洋における人権と平和

—— 21世紀的視座の確立に向けて ——

研究代表者 阿 部 浩 己

1 平和と人権の基盤が激しく動揺する時代状況の中で法学／政治学はいかなる役割を担いうるのか。それを多角的に探るのが本共同研究の目的である。人権の尊重と非暴力の平和を希求する世界各地の知的・実践的営みを知り、そのなかから新たな視座の涵養をはかることを目指した。

2 本共同研究の研究分担者及び分担内容は次のとおり。

阿部 浩己（研究代表者・人権状況の分析）

郷田 正萬（安全保障状況の分析）

中山 幸二（司法状況の分析）

山田 徹（政治過程の分析）

3 業務内容 —— 調査・講演会・意見交換等の実施

本共同研究はアジア太平洋地域に重心を定め、特に中国と韓国の動向を優先的に探った。

（1）北京行政学院への調査旅行

2002年7月1～5日、北京行政学院を訪問し、次の業務を行った。

i) 講演

中山 幸二「日中法律の比較 - 民事訴訟を中心に」

山田 徹「日中外交関係について」

ii) スタッフセミナー

司法状況の分析、政治状況の分析

iii) 意見聴取

人権・司法・政治状況に関して次の3名から意見を聴取した。

郭 務 本（北京科学技術大学法学院教授）

高 智 愈（中西文化交流研究所所長）

金 供 云（中国人民大学教授）

（2）講演会・意見交換

神奈川大学横浜キャンパスにゲストを招き、次のとおり講演会を開催し、意見交換を行なった。

i) 2003年6月9日

鄭 貞 儉（駐横浜大韓民国総領事）

「東アジアにおける政治・経済および日韓関係について」

ii) 2003年9月4日

Chan-Un Park（大韓民国弁護士）

「韓国の人権の現況」

iii) 2003年12月11日

朱 曉 青（北京行政学院经济管理教研部経済学副教授）

「東アジアにおける政治経済」

iv) 2003年12月12日

恵 連 江（北京行政学院法学研究部法学副教授）

「中国の地方政治」

（3）調 査

次のとおり調査活動を行なった。

i) 欧州における資料収集

郷田正萬が、2004年2月10～17日にかけてウィーン大学、ハンガリー国立図書館、プラハ国立図書館、フンボルト大学を訪問し、アジア太平洋との比較検討に必要な資料を収集した。

ii) 世界各地の人権・平和研究所の情報収集

藤本 敏明（神奈川大学法学部非常勤講師）及び

石川 えり（難民支援協会職員）

の助力を得て、世界各地の人権・平和研究所についての情報  
収集を行った。

（４） 共同研究成果の発表

収集した資料及び共同研究参加者間の討議などをふまえ、研究成果を随  
時公刊した。

i) Seiman Gohda, "Foreign Policy Toward Korean Peninsula",  
Kanagawa Law Review, Vol.36, No.1(2003), at 1-6..

ii) Dae-Kyu Yoon（郷田正萬訳）

「北朝鮮の対外経済開放政策と法制の変化」

神奈川法学36巻1号（2003年）7－23頁

iii) 阿部 浩己「平和的解決への義務を果たせ」

週刊金曜日2003年1月31日号18－19頁

iv) 阿部 浩己「グローバル化と国際法－人権戦略の可能性」

財団法人世界人権問題研究センター研究紀要8号（2003年）

191－208頁

v) 阿部 浩己「帝国の『法』に対抗する」

季刊ピープルズプラン22号（2003年）56－66頁

vi) 阿部 浩己「『難民』をみる視点－国際情勢から『難民』をみる」

法学セミナー2003年7月号59－63頁

vii) 阿部 浩己「国際法からみた『イラク復興支援』」

2003年8月号25－28頁

viii) 阿部 浩己「派兵は『不正義』への加担である」

世界2003年12月号49－56頁

i x) 阿部 浩己「緊急事態における人権保障—国際法の視座」

国際人権14号 (2003年) 1 - 8頁

x) ABE, Kohki, "Japanese Refugee Policies Revisited",

Kanagawa Law Review, Vol.36, No.3/4(2004), at 1-39

#### 4 共同研究成果のとりまとめ

以上の業務成果をふまえ、最終研究報告書を取りまとめる。